

# 機関誌発刊に寄せて

佐々木吉郎

城西大学の設置が認可され、昭和40年4月から発足することになった。この大学に経済学部が設けられることになった。この経済学部の発足を記念するとともにこれが永遠の発展を希念して、機関誌『城西経済雑誌』を刊行することにした。まず季刊として発足するのであるが、この機関誌の成長を思うこと切なるものがある。もちろん、この機関誌は大学学部のものである。したがって、この機関誌は大学の目的使命の達成に資するものでなければならない。

現代の歴史の進展過程において『大学とは何ぞや』を根本的に問うてみなければならない問題があることは、卒直に認めなければならない。けれども、この問題の解明のいかんにかかわらず、大学における研究は寸時も欠くをえないものである。大学もたしかに教育の場である。この教育はつねにまえむきの研究によって支えられているものでなければならない。まえむきの研究を欠いた大学教育はありえないのである。大学が根本的に問われるとしても、このことに変わりはないはずである。

そこで、研究の成果を発表する機関誌が必要になってくる。この必要にこたえるものがこの機関誌なのである。研究の成果は解決を与えるものであるとは限らない。それが問題の提起におわることもあるであろう。あるいはまたそれがすぐれた経験の記述であることもあるであろう。現代の社会諸科学にみられるような実証主義的傾向にもかかわらず、思策的な仮説を求める研究もあるに相違ない。研究がどんな傾向のものであろうと、またどんな色調のものであろうと、それは構わない。そういった研究をこの機関誌をとおして客観化するのである。こうして清新な知見を積み重ねながら、われわれは大学の目的使命の達成にこたえようとするのである。

希くば，学会および社会の支持と鞭撻とをえて，この機関誌に絶えず明日の光りが恵まれることを。

記して発刊の辞とするわけである。